



みんなで平和について
語ろう・考えよう
団体会員・会員対象

地域と協同の研究センター
名古屋市千種区稻舟通1-39
TEL 052-781-8280
mailto:03416@nifty.com

沖縄の光と影を見つめ、未来へのメッセージを！

沖縄特別企画報告会

2026年2月21日（土）

10時～12時30分

名古屋都市センター

14階 会議室1・2

（名古屋市中区金山町一丁目一番一号 金山南ビル内）



お申込みは上の
QRコードから
お願いします。

参加費無料

閉会後希望者は
お弁当（要申込
1,000円）を食べ
ながら交流



特別講演：山本靖郎さん（コープおきなわ元理事長）

沖縄特別企画の際も「生協と平和」について熱く語っていただきました。
基地の島、沖縄の現実と生協の果たす役割についてお話ししいただきます。

沖縄の3日間の様子を動画で上映します

山本さんをはじめ、熱い思いの元組合員理事のガイドさん、フォーブスジャパンの次世代を担う30人に選ばれた平和学習に取り組む若いガイドさんたちから見て学んだこと、そして、沖縄のサンゴの白化の現状を学ぶ様子を動画にまとめました。

沖縄特別企画には、コープぎふ・コープみえ・コープあいち・大学生協・南医療生協から13名が参加。



報告会では、それぞれが
参加しての感想やこれか
らの活動への想いを語り
ます。

沖縄では、ひめゆりの
塔、糸数アブチラガマ、
平和祈念資料館などを見
学し沖縄戦の実相を学
び、サンゴの学習も行い
ました。



copeおきなわ元理事長の山本靖郎さんが語る沖縄の話

駒井義明（地域と協同の研究センター 専務理事）

宮崎県出身で沖縄に移住して41年になる山本さんの視点は、私たちにとって新鮮でした。少しだけ紹介します。ぜひ、報告会にきて直接お聴きください

1. 牛乳パックが「1リットル」ではない理由

沖縄のスーパーで見かける牛乳パック。実は、私たちが普段目にしている1リットルサイズではなく、「946ミリリットル」であることをご存知でしょうか。

これは、戦後27年間にわたるアメリカの統治時代の影響が今も残っているためです。現在多くの商品が946ミリリットルのまま販売されており、沖縄の戦後の暮らしとアメリカとの深い関わりを象徴する商品となっています。

2. 「基地」と共にある日常の複雑さ

沖縄には多くの米軍基地がありますが、そこには「基地で働く人々」という生活の現実があります。現在、約8,000人から9,000人の沖縄県民が「軍雇用員」として基地内で働いています。

沖縄は全国的に見て失業率が高い傾向にありますが、基地の中の仕事は公務員のように安定しており、年収も比較的高いと言われています。そのため、親戚や同級生が基地で働いていることは珍しくありません。基地問題に対して「平和のために基地はない方がいい」という思いを持つつも、一方でそれが多くの人々の生活を支える収入源になっているという、非常に複雑な現実が日々の暮らしの中にあります。

3. 高校野球に込められた特別な思い

沖縄県民にとって、高校野球（甲子園）は他の県以上に特別な存在です。

1958年、首里高校が初めて甲子園に出場した際、選手たちが持ち帰ろうとした「甲子園の土」が、当時の米軍の規制によって海に捨てさせられたという悲しい歴史があります。当時は本土が「外国」扱いだったため、植物防疫法を理由に持ち込みが許されなかったのです。こうした米軍統治下の苦難の歴史があるからこそ、沖縄の人々は甲子園での活躍に、自分たちのアイデンティティや誇りを強く重ね合わせ、県を挙げて熱狂的に応援するのです。

6. 「命どう宝（ぬちどうたから）」の精神

沖縄には「命こそ宝」という意味の「命どう宝」という言葉があります。平和祈念公園にある「平和の礎（いしじ）」には、敵味方の区別なく、沖縄戦で亡くなった24万人以上の名前が一人ひとり刻まれています。これは、死者を単なる「数字」として扱うのではなく、一人の人間として、その尊厳を大切にするという沖縄の平和への決意の表れです。

2025年は「国際協同組合年」。私たちの平和で民主的な社会を持続させていくためには、こうした歴史の背景を知り、一人ひとりが自分のこととして平和や民主主義を考え、語り続けることが大切なかもしれません。

沖縄の牛乳パックの少し足りない数ミリリットルは、単なる容量の違いではなく、私たちが共に考えなければならない「歴史の重み」そのものだと感じました。